

< 国語科 >

1 テーマ

表現の確かな力を付けるために

「読んで、考えて、表現する」活動を通して

2 設定理由

本校の児童生徒には、表現意欲はあっても、自分の気持ちや考えを言葉にして伝えることが苦手であるという傾向がある。視覚障害による概念形成・言語獲得の困難さ、生活経験や読書経験の不足もその要因として考えられる。

昨年度は、高等部普通科の国語表現の授業において、「表現方法を学ぶ」という目的意識に基づいた、「作品例の読解 実際の表現活動 推敲 発表 自己・相互評価」という学習活動に継続して取り組んだ。その結果、自他の文章を意識的に読む姿勢が育ってきた。一方、分析・考察する力や、話して伝える力の不足は課題として残った。

そこで、今年度は、高等部普通科2・3年生の現代文の授業において、「読んで（聞いて）、考えて、表現する」活動に重点的に取り組むことによって、進学・就職を控えた高等部生として必要な、小論文や面接等に対応できる確かな表現力を育成することを目指し、本研究テーマを設定した。

3 仮説

「読んで、考えて、表現する」活動を、個々の生徒の実態や課題に応じて、段階的配慮を加えながら指導・支援していくことにより、表現の確かな力（自分の意見を的確に伝える力）が育つであろうと考える。同時に、この取り組みが、表現力育成に当たっての適切な支援方法の検証に結び付くと考える。

4 方法

- (1) 「読んで、考えて、表現する」活動のプロセスと必要な支援内容を整理する。
- (2) 教科書の評論文の学習において、「読んで、考えて、表現する」活動を強化する。
- (3) 「読んで、考えて、表現する」活動のための補足教材を開発し、授業に取り入れる。

- (4) 授業実践後に生徒の表現力の評価を行い、活動のプロセスと支援内容・方法を検証する。

5 計画

- 4・5月 研究計画の作成
5・6月 活動のプロセスと必要な支援の整理、補足教材の検討
7月～11月 授業実践、評価、検証
12月～3月 研究のまとめと次年度の方向性の検討、準備

高等部普通科 国語科 学習指導案

場 所 高等部普通科教室

指導者 T 1

1 単元名（科目：現代文）

要約文の書き方

2 単元の目標

- (1) 要約のきまりや手順を理解する。
- (2) 筆者の主張を的確に読み取り、それを簡潔にまとめることができる。

3 生徒と単元

- (1) 点字使用の男子1名、普通文字使用の女子1名の学習グループである。高等部入学後の表現分野の学習を通して、表現に対する意欲が向上し、自他の文章を意識的に読む姿勢が育ってきている。一方、文章を分析・考察する力や自分の考えを的確に伝える力については、まだ不足している面がある。2名とも進学希望であるため、小論文や面接等に対応できる力が必要だという認識をもち、表現に関する学習に真剣に臨んでいる。

	見えの程度等	学習の様子
A男	全盲 点字使用	<ul style="list-style-type: none">・ 比較的語彙量が多く、表現方法の工夫ができる。・ 定期的に小論文の学習を行っており、文章構成や論の展開に対する意識や理解が高まっている。
B子	弱視	<ul style="list-style-type: none">・ 学年相応の漢字や語句の力が不足している。

墨字使用 (普通文字)	・ 書くことに対する抵抗感は少ないが、構成を意識した表現をすることは不得手である。
----------------	---

(2) 本単元は、要約のきまりや手順について解説している教科書教材『要約のしかた』と要約の練習のために用意した三つの補充教材とで構成している。文章を要約するとは、筆者の立場に立って、その文章の主要な点を簡潔にまとめることである。つまり、要約は、文章読解の学習活動であると同時に、文章表現の学習活動でもあり、国語の総合的な力を必要とする活動だと言える。本学習グループの生徒は、高等部において、これまで要約に焦点を当てた学習を行っていない。そこで、この単元において、自分の力で文章を分析・読解し、その結果を分かりやすく表現する体験を積むことを通して、「読む」こと、「書く」ことに対する生徒の自信を高めたいと考え、本単元を設定した。また、見えない・見えにくい生徒は、視覚的な制約を受けるため、文章の全体像を把握する上で不利な面がある。本単元の学習で要約の力を身に付け、部分に着目しながら全体をとらえる方法を知ることによって、その制約を軽減することにもつなげたい。

(3) 指導にあたっては、生徒が意欲的に学習に臨むことができるように、補充教材の文章量や難易度が生徒の実態に合ったものになるように留意する。異なる文章でも同じ手順で要約できることが分かり、手順に対する理解が深まるよう、要約用ワークシートを作成する。その際、筆者の主張を的確にとらえる上でポイントとなる、「主題の把握」「文章構成の確認」「キーワードやキーセンテンスへの着目」につながるように配慮する。また、要約のきまりや注意事項についての意識を高めるために、それらを要約文の推敲や評価の観点として提示する。本単元以外の他教材の学習においても要約の活動を積極的に取り入れることによって、年間を通して生徒の要約の力、文章を読解する力の向上を目指す。

4 指導計画

総時数 10時間

- (1) 要約のしかた：要約用補充教材『方向オンチの科学』・・・3時間
- (2) 要約の実際：要約用補充教材『アップとルーズで伝える』・・・3時間
- (3) 要約の実際：要約用補充教材『生き物はつながりの中に』・・・4時間

(本時2/4)

10分	<ul style="list-style-type: none"> 自分の要約文を見直す。 	<ul style="list-style-type: none"> ードを着眼点として示す。 見直しのポイントとして、「構成図のまとめごと」の要点を示す。 	
-----	---	--	--

(4) 評価

< 生徒 > 本文の文章構成を理解し、それに自分の要約文を対応させて見直すべき点を考えることができたか。

< 教師 > 文章構成を理解するための方法や見直しのための観点は、生徒にとって分かりやすく、適切であったか。

